

研究・調査報告書

報告書番号	担当
327	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Prospective study of alcohol use and hearing loss in men. 男性において飲酒が難聴に及ぼす影響についての前向き研究	
執筆者	
Curhan SG, Eavey R, Shargorodsky J, Curhan GC.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ear Hear. 2011 Feb;32(1):46-52.	
キーワード	
飲酒、難聴、男性、前向き研究	
要 旨	
<p>目的： 飲酒が難聴に影響を及ぼす可能性についての既存研究結果は一致していない。男性において飲酒が難聴に影響を及ぼすか否かについて前向き研究により検討する。</p> <p>方法： 40歳から74歳の医療関係職男性26,809人を対象として自記式質問票を用いて飲酒と難聴についての情報を収集した。1986年にベースライン調査を行い、それ以降、二年毎に調査を行った。難聴発症の定義は「1986年以降に医師により難聴と診断されたもの」とした。コックス比例ハザードモデルにて、飲酒による難聴の多変量調整ハザード比(HR)、95%信頼区間(95%CI)を算出した。</p> <p>結果： 386,081人年の追跡期間に難聴発症3,447例を確認した。結果、飲酒量は難聴発症との関連を認めなかった。非飲酒者に対して飲酒者の難聴発症のHR(95%CI)は1.00(0.89-1.12)(5.0-9.99g/day), 1.08(0.96-1.21)(10.0-14.9g/day), 1.09(0.97-1.22)(15.0-29.9g/day)0.98(0.85-1.13)(30-49.9g/day)であった。これらの結果は年齢別、葉酸摂取の有無別に検討しても相違なかった。しかし、ビタミンB12の摂取が少ない群では、多量飲酒者は難聴のリスクが増加していた1.18(0.98-1.41)(10.0-14.9g/day), 1.19(1.00-1.41)(15.0-29.9g/day), 1.26(1.03-1.54)(30-49.9g/day)。</p> <p>結論： 男性において少量～中等量の飲酒は難聴発症に影響を及ぼさないと考えられた。ビタミンB12の摂取が多量飲酒による難聴に予防的な役割を示すか否かについてはさらなる検討が必要である。</p>	